

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体的にはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。 ④受講動機を見ると、「必須科目である94.9%」、「資格取得に必要である」16.9%で、「関心のある内容である」1.7%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。 ⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すようこころかけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は78.0(±10.8)点であり、不合格者は2人だった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同じレベルである。次年度は理想レベル80点を目指し、成績を上げる工夫が必要である。 ③学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」と回答した者は96.8%であったが、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的良好だった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.6で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5であった。昨年と同じであった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.6で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、説明が聞き取りにくいところがあったという意見があった。次年度からは学生の意見を受け止めて、改善していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、意欲関心の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。しかし、意欲関心についてはさらなる工夫が必要である。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間をとり、復習課題を提示して、学生の意欲関心をあげる努力をしていきたい。 説明内容に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	3	前期	必修	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は例年どおりで、「必修科目である」が100%に近く、「関心のある内容である」は5%未満と、極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を引き出せるように努めた。 ②例年どおり、教科書の内容を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めるた。理解を深めやすく解説手順や話し方に留意し、また、記憶する要点を簡潔明瞭に示すことによって学習の便宜を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①受講登録者数は74名であったが、実際の受講者は70名であった。 ②今年度は、不合格者ゼロで、受講者全員が本試で合格者した。昨年度は本試験での合格者は90%(一昨年度は93%、その前の年度は89%)であった。成績は秀14%(昨年は18%、一昨年は7%)、優33%(昨年は35%、一昨年は30%)、良30%(昨年は25%、一昨年は40%)、可24%(昨年は11%、一昨年は17%)であり、成績上位者の割合は高くはないが、全体として一定のレベルに集中しているという状況であった。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の合格率は完璧であり、理想的レベルに達していた。 ③標準偏差は21.9、分散は478であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績レベルとしては秀でてはいないが、ここ数年の平均的なレベルを保っており、何よりも本試験で全員が合格したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①法律改訂のあった内容については、その改訂の背景について分かりやすく解説することで、より理解を深めることができるように十分に配慮した。 ②遺伝子組み換えの新技术であるゲノム編集食品について、最新の話題を取り入れて解説を行った。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成について十分達成できた。 ②例年の課題である「免疫についてもう少し理解を深めさせるために時間が必要である」ことについては、講義内容の調整と資料改訂によって改善できた。 ③次年度からは、新カリキュラム下で、これまでの「必須科目」としてではなく「専門選択科目」として本科目は再スタートする。これまで本授業で培ってきた微生物に対する受講者の様子を鑑みて、魅力ある講義を実施できるよう努力したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードコーディネート論	3	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。そのため学生にとっては計画的に学習が進めにくいのではないかと予測される。 ②今回の受講動機をみると「資格取得に必要なである」が82.5%と資格取得の意志が強く見受けられる。 ③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すように努めた。 ④過去問や専門問題などの印刷物を配布し、各自が自主学習できるように促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が3.8、4.0点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は83.0±12.1点と昨年度に比べ、平均点が上昇した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは41名中28名の結果だった。2名は再試、1名無資格であった。定期試験の日程が他の科目と重なり、学習時間がおそろかになっているように考えられる。選択科目であるフードコーディネート論は出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習する必要がある。。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目をを含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。 ③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題は無いと思われる。ただし、すでに履修済みの科目10科目の学習においては、学科として、過去問の印刷物の配布や自主学習の意欲向上に努めなければならない。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に 関して特に重点を置いて学生に周知させたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	過去問を中心としたテスト内容で最高得点が100点、最低得点が47点と2極化した。選択科目であり、任意の検定試験であるため、学生の学習意欲にかなりの差が認められた。課題としては、過去の出題が多い過去問内容に重点をおき、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようにスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルに達する近道であると考え。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は例年どおりで、「必修科目である」が100%に近く、「関心のある内容である」は5%未満と、極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を引き出せるように努めた。 ②昨年度までと同様に、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって、班の協力体制を築くことに成功した。 ③より一層、各自の理解を深めるために、臨機応変に課題やレポートを課すことによって、実験の要点や技術を会得できるよう便宜を図った。 ④管理栄養士国家試験にとって重要科目である「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後、食品企業に就職する学生にとっては勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①登録された受講者数は70名であったが、実際には68名が受講した。 ②最終成績の平均値は84点であり、昨年の85点、一昨年の84点、その前年の88点に比べ大差は無かった。再履修対象者はゼロであった。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価47%(昨年は43%、一昨年は47%、その前年は50%)、80点以上90点未満の優評価21%(昨年は25%、一昨年は19%、その前年は17%)と、これまでと比べて大きな差はなく、理想的なレベルに達している者が68%(昨年は68%、一昨年は66%、その前年は78%)という、好ましい結果であった。 ③標準偏差は18.1、分散は329であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①この学年のこの学期は、実習科目の多い学期であり、他教科のレポート課題の提出時期などを考慮して提出締め切り日を設定することによって、より質の高いレポートを書くことができたように見受けられた。 ②意欲的な質問が多く出される学年であったので、その回答には誠意をこめて対応した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①基礎実習のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については十分に達成できた。 ②次年度からは、「食品衛生学実験」と「微生物学実験」の内容を合わせて新カリキュラムの「食品衛生学実験」がスタートする。これまで、双方の教科で培ってきた手法をうまく踏襲して、より良い授業に行きたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	3	前期	必修	はい	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が93.2%、「資格取得に必要である」が20%となることは、当然の回答であり、「関心のある内容である」が6.2%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年後期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。 ②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は72名の受講生中、A(秀)が4.1%、B(優)が26.4%と多く、C(良)34.7%と良が一番多かった、D(可)が20.8%で、不可の学生は10名(13.9%)であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は4.1%と低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も26.4%と多いため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、68%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が96.9%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、68%の学生が予習・復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は64%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の23%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年後期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからは講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「必須科目である」98.7%、「資格取得に必要である」23.4%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。できるだけ各テーマごとに復習問題を出し、関心を引き付けるように努めていたが、「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。 ②テーマごとに確認問題を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ③「本授業は初めてだったけど楽しくて良かったです」との意見があり、今後も興味を引き付ける内容となるよう努めていきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的には成績の平均値は82(±9)点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達したが、点数にばらつきがみられ、理解度の差が生じた。目標別にみると、知識理解に関しては、95%、思考判断に関する問題は94%であった。 学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考え。 「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。準備性の項で述べたように確認テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。2回生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から標準偏差にバラツキは見られたものの、知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「配布資料が途中から見やすくなって良かった」というものがあった。これは今後も取り入れていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。 次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の到達度自己評価では約99%の学生がすべての項目において、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。本科目では、コミュニケーションスキルを高めることが必要であるため、授業の中でワークを取り入れコミュニケーションが高まる工夫をしている。そのため、本年度は、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は100%であった。また、達成度自己評価の中央値は4.0点であり、目標は達成されたと考えられる。 学習量の評価では、授業の課題以外学習していない学生が64%見られた。栄養学科3年前期は開講科目が多く、臨地実習前ということもあり課題の多い時期である。自由記述でも学習をしていない理由に「忙しかった」とあり、十分な時間を確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、学生が自主的に学習に取り組むように、意識づけを図ることが課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ず身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約99%の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても標準的レベルに達していた学生が多く内容的妥当性については問題ないと考ええる。また、自由記述において、「とても面白かった」「楽しみな授業でした」「今後の進路について、栄養のカウンセラーもいいなと思った」といった意見があり、興味深く受講していたことが窺えた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	初年度の授業評価では、授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が他の評価と比べ低い値であった。そのため、一昨年度より授業後の感想や質問が自由に記述できるようにワークシートを作成し、毎時間提出としている。また、質問がしやすいように適宜声掛けをし、授業の中での疑問点や要望にその都度対処するよう努力し改善している。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。 本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほとんどの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言い難く、受講後の準備も不足していた。2017年度より、事前事後学習を促す取り組みとして、確認テストを導入し、徐々にではあるものの、提出する学生の数は増えてはいるが、まだまだ十分な成果が得られていないのは非常に残念である。栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、引き続き、確認テストを実施しつつ、他に何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は60(±13.9)点であり、本試験合格者は全体の58%であった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、19名(28%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は2名(3%程度)であった。また、2018年度の成績(61(±16.9)点)に比し、今年度の点数はほとんど変わらなかったものの、合格者数は全体の68%から58%に低下した。同様に、標準的レベル以上を達した学生数も低下したことから、当該学年においては、学生の能力の差が大きく、修得状況の違いが個々によって異なったことに加え、標準的レベル以下の学生が多かったことにより、全体的な評価が下がったものと推察される。このことから、学生のより一層の事前事後学習の必要性が示唆された。学生の到達度自己評価において、全員の学生が『専門的知識および技術の修得を得ることができた』と回答し、学生としては修得できたとの認識があるものの、試験による評価において十分な成績を得られなかったのは、的確な知識の修得ならびに理解ができていなかったためであり、次年度以降、確認テストの実施に加え、他に何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全員の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、昨年度同様、今年度の学生においても、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えれ、次年度以降も引き続き、より詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目では板書での記録としているため、自由記述として、『字が小さい』との意見が挙げられたが、このことは学生の着席する位置にも関係しており、そのような学生にはできるだけ前に着席するよう、促すつもりである。また、配布資料は最小限とし、学生は主として板書を記録するため、大多数の学生は自分なりのノートを作成したとの回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書による記録への配慮を忘れず、今後も続けていきたいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、全員の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であると思われる。また、引き続き、確認テストを実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	久保 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり、後期に履修する臨地実習ⅡおよびⅢ（管理栄養士国家試験受験資格必修科目）の履修要件科目であることから、第1回の授業時に、本科目に課せられた要件を説明し授業に臨む姿勢の醸成を図った。受講動機「①必修科目である」を選択しているが98.5%であるが、「②資格取得に必要である」が13.8%と昨年26.0%より低下しており、国家試験受験に向けての意欲を持たせるような説明の工夫が必要かと考える。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均は68.9点であり、本試験合格者は全体の80.3%であった。評価別にみると、A評価4名（5.6%）、B評価5名（7.0%）、C評価13名（18.3%）、D評価35名（49.3%）、E評価14名（19.7%）となっている。学習量の評価において「予習・復習時間が取れていない」と回答したものが約半数おり、図書館の利用も90%が「無い」と回答しており、自己学習に意欲を持つよう課題などの工夫が必要であるとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、2年時開講の公衆衛生学および公衆栄養学Ⅰを理解したうえで成立する科目であり、栄養行政についての具体的施策について学び、理解する科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、89.6%の学生が、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」と答えていることから内容的妥当性は確保できている。 ②栄養行政（公務員）の採用は、県で1～2名の採用、市町村においては採用試験すら実施されないため、学生は「国家試験受験のために必要な科目」と位置づけていると考えられる。しかし、「職業選択の参考になった」は91%、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が91%と高いことから内容的妥当性が確保されていると考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	行政、法律、社会保障などの理解には中学高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、 臨地実習及び国家試験合格のための内容を理解しようとする授業時間数が不足気味である。かつ、教員の質問に対し応答がないので、具体的な説明、事例の紹介を行うことで、自分自身の考えを構築する習慣づけを試みた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業終了後、復習と次週予習のため小テスト問題を配布し、次回の授業開始時解説をすることにより重要事項の確認をし理解を深めることができたようにした。 臨地実習の要件科目であることを理解し、講義の中からも知識のみでなく社会性を見につけられるようにしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、3年次の管理栄養士必修科目である。受講動機では「必修科目である」が98%、次いで「資格取得に必要である」が14%であった。授業の予復習においては、学習準備や復習を実施したものは本年度も約3割であった。予復習の実施率が低い傾向がここ数年見られる。本年度も実習の進め方や課題の量等を適宜、確認したが、大幅な改善には至らず今後も継続して学習準備性の改善が図れるよう検討を行っていく。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合的な成績の平均値は79(±9.5)点であった。再試験対象者は3名であった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは、56%であった。学生による授業評価においては、新たな知識を得て、自分なりの目標を達成している者の割合が95%を超えていた。また、学びを深める意欲を持つことができた者は95%、様々な課題を検討する力を得たとの回答は97%と割合が高く、自己評価については、どの項目もあまり差が認められなかった(平均値3.3～3.4)。学習量の評価においては、本年度も半数を超えるものが予復習を行っておらず、また授業の課題以外への自発的な取り組みを行ったものは僅かであったため、学習量とその内容を吟味し、今後の改善に繋げたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性について、本科目は管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術の実践的な学びを目指している。到達度自己評価においては、大多数の学生(約95%)が自分の目標を達成し、新たな知識を得て、自分の専門分野について、様々な課題を検討する力を得ることができたと回答した。併せて、専門分野で必要となる技術を身につけることができた(五段階評価④⑤)の回答者:約37%と評価している。成績評価においても、一定の成績を収めており、DP、行動目標の視点から思考・判断に関する達成度も高く、内容的には妥当であると考え。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「学生の質問を受け付け、答える機会が作られていた」(97%)、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど授業に参加する機会が作られていた」(99%)の回答を得ており、今後もこの度の評価を継続できるよう努めたい。学習量の評価において、予復習の取り組みをしたものの割合が依然低かった。授業評価より、図書館やインターネットの利用割合が低いことが示されたため、予復習や自発的学習の動機づけとしても、インターネットや図書館での図書や関連雑誌の積極的活用を促したいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術が実践的な学びに繋がっていくことを目指している。学習到達度の自己評価において、約95%の学生から目標を達成し、新たな知識を得て、専門分野で必要となる技術を身につけることができたとの回答を得ており、今後も継続して、授業の進め方や内容を精査し、授業への関心・意欲が高まるよう更なる改善を図りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習 I	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講の動機は、「必須科目である」97.3%、「資格取得に必要である」28.0%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。 ②テーマごとに課題を提示し、グループ演習を実施した。 ③「グループで行う活動が授業内で収まるよう配慮されていてとても集中して取り組むことができた」「説明が少なく、何をしたいのかよくわからない時があった」等の意見があり、理解判断力に差がみられたことが今後の課題である。また、「発表が多くあり、話す力、コミュニケーション力、人前で話す力が身についた」との意見では、今後も資格取得後の実践力習得に向けた更なる検討をしていきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的には成績の平均値は79(±1)点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては、95%、思考判断に関する問題は94%であった。 学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考える。 「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、「何が重要な分からなかった」というものがあった。これは今後の課題として取り入れていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。 次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがある と考えるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習 I	3	前期	必修	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として管理栄養士に必要な臨床的な医学基礎知識および考え方を修得できるよう心がけた。 ②実習の最初の回に、実習全般にわたるオリエンテーションを行った。 ③実習の終了後レポートの提出を義務づけ、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④実習で配付するプリント資料を昨年より改訂し、よりわかりやすい内容とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①実習成績の平均点は全体で91.6点±5.3であった(高崎担当分が93.0±5.7、南里担当分が89.8±7.2)。不合格になったものは2名(出席不足1名、及び本試/再試欠席1名)であった。理想的レベル(80点以上)に達したものは、全体で65名(高崎担当分で66名、南里担当分で64名)であった。今回の成績評価は、レポートと筆記試験の両方(50%ずつ)で評価したが、昨年度と比べると、平均点は約7点増加していた。成績優秀者、不合格者の割合はほぼ同じであった。 ②学生の授業評価アンケートの”到達度自己評価”において、「自分なりの目標を達成した」の項目が3.7と昨年度より0.1ポイント高く、その他の項目も3.6～3.7で昨年より高得点であるものが多く、おおむね自分なりの目標を達成できたと答えている。この点からも、教育目標は達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、必修である。国家試験の応用問題に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。今回はレポートと期末筆記試験の両方で成績を評価したが、良好な成績を収めていることから、基礎的知識を応用に活かしていると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績は非常に良好であることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①”授業の質評価”において、「テスト、レポートなどの評価基準の明確さ」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題の明確さ」など、5項目中2項目で昨年度より平均 点が0.1ポイントと高かった。学生の成績もかなり良好であったことより、授業の目標は達成できたと考えている。次年度に向けて、さらに知識を深め、技術を身につ けることのできる実習を心掛けるとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の自由記述に、「聞き取りにくかった」という感想もあったので、なるべく明確でゆっくりとした説明を心掛けたい。 ③インターネットを利用した学生は29%であった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、臨床的基礎知識の形成については概ね達成できたと考える。また、臨床的な思考判断の面でもある程度、課題を 達成できたと思われる。今後、関連科目である後期の「臨床栄養学実習Ⅱ」に引き継いで、臨床栄養の実際の知識・技術の習得を図っていくことになる。 ②今回の実習では、自由記述によるレポートだけではなく、実習に関する重要事項を設問として答えさせるようにした。これによって、学生にとって実習のポイントが より明確になり、今回の成績向上にもつながったものと考えられる。今後とも、「実習のねらいを設問として学生に考えさせる」、「実習内容を振り返るための復習課題 を提示する」などの方策により、学生がより主体的に実習に取り組み、実習で得た知識・技術の定着ができるようにしていきたい。 ③配布物(実習資料のプリントなど)に関しては、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であるが、栄養士・管理栄養士資格必修科目である。そのため、「必修科目である」と答えている学生が大半であり(88.5%)、また「資格取得に必要である」とする学生が36.1%であった。以上のことから、当該学年における資格取得への意識は高いことが示唆され、学習準備性に関しても十分であると判断される。本科目は、2年後期・給食経営管理実習Ⅰ(以降、実習Ⅰ)と連続した内容となっているため、実習に際して必要な内容は実習Ⅰで修得済みである。この前提の下で、各学生が給食のマネジメント行う実習となっているため、非常に自主性が求められる内容となっている。昨年同様、給食提供実習に入る前に十分な演習の時間をとり、実習Ⅰの振り返りをする時間を設け、また、学生との時間外の打ち合わせにも十分な時間を設けることにより、スムーズな給食マネジメントが行えるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の成績平均点は90.7点(昨年度81.5点)であり、学習目標は概ね達成されたと考える。学生の自己評価においては、「知識を確認、修復したり、新たに得ることができた」100%(昨年度98.9%)、「課題を検討する力を得ることができた」98.4%(昨年度95.2%)、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」98.7%(昨年度97.6%)と高く評価しており、DP1(知識)およびDP3(意欲)については概ね達成されたと考える。また、学習量の評価では、「1回30分程度以上の準備をどれくらいしたか」に対して54.1%(昨年度55.2%)の者が1回以上は準備をしたと回答しており、学年全体を俯瞰して、積極的な取り組みの姿勢が得られたと考えられる。一方で、今年度も課題以外の取り組みで「何をすればいいのかわからなかった」という意見が見受けられた。しかし、自主性が求められ、グループ活動が主体となる本実習において、このような意見が出ることは非常に残念である。昨年に引き続き、一部に主体性をもって実習に取り組むことができていない学生の存在が一定数いることが確認された。より給食施設の業務に則した本実習において、やるべきことが分からない状態であることは非常に憂慮すべきことであるとらえている。また、授業準備のために雑誌(31.1%、昨年33.7%)、文献検索(14.8%、昨年18.0%)、インターネット利用(52.5%、昨年42.2%)については昨年と同水準であったが、インターネットからの情報収集が増加しており、情報の真偽を見分ける指導を強化すべきであると思われた。栄養情報の提供を行う上では、図書館の利用を積極的に行ったようである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習Ⅰの準備性を高めるための科目でもあるため、特定給食施設の実務に則した内容を心掛けている。学生の自己評価では「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」100%、「職業選択の参考になった」98.4%(昨年98.8%)と、高い評価が得られていた。後期科目である臨地実習Ⅰに向けて、専門職に対しての動機づけの強化につながったと考えられ、カリキュラムマップ上の位置づけは適当であると思われる。以上のことから、内容的妥当性は適切であると考えられるが、一部の学生に管理栄養士への学習意欲が乏しいものがあることが推察される結果が散見されるため、昨年度同様に、意欲の低い学生に対しての指導方法を検討する必要があると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、全項目とも平均して3.9ポイント(中央値4.0)と高いことから、授業の内容については適切であったと考える。さらに、「学習量の評価」と合わせて検討すると、学生が科目に対して高い準備性を持ち、また授業を受講するにあたりモチベーションを維持していたということが推察されることから、授業の進め方に関しても適当であったと考える。一方で、情報収集の点ではインターネットの利用の頻度が高いため、引き続き、情報の正確性を見極めるメディアリテラシーへの指導強化をしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の到達度自己評価の結果から、管理栄養士として必要な知識及び技能に関する理解は深まったものと推察される。今後も、専門職として実務に携わるための指導を心掛けていくこととする。しかし、一部の管理栄養士の職務に対してのモチベーションが低い学生が出現している点に関して、実習を円滑に進める上でも指導方法を検討していこうと思う。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅰ	3	前期	選択	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年後期・臨地実習Ⅰの事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が96.9%を占め、「資格取得に必要」が14.1%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。 ②臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。 ③特に、臨地実習に向けての種々の準備を行う時期に関しては、学生自身にスケジュール管理を徹底するように指導し、随時、一斉メールを利用することで周知を図っている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の平均値は72.0±8.6点(昨年度70.95点)であり、再試対象者は5名であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等に関しての自己評価は平均3.7～3.8(中央値4.0)であった。しかし、「学習量の評価」では、62.5%(昨年度48.2%)の者が予習に、48.4%(41.0%)の者が復習に取り組んでいるおり、予習に関しては。取り組む者が増加していた。一方で、「図書館利用」に関しては、「図書、雑誌」26.6%(昨年度25.3%、一昨年43.8%)、「データベース」14.1%(昨年度14.5%、一昨年23.6%)、「インターネット」48.3%(昨年度36.1%、一昨年55.1%)と昨年度同様の利用者率となっていた。特に図書・雑誌の利用は利用率の低さが顕著であった。以上のことから、自ら情報を収集し、学習しようとする積極性があまり認められない結果となった。DP1、DP3、DP4が達成できたとは言い難い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、3年後期より開講されている臨地実習Ⅰの準備科目である。特に臨地実習Ⅰは、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けでありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。この点に関しては、昨年度の反省も踏まえ、専門分野担当の先生方との連携を通して、弱点の補強に努めた。臨地実習Ⅰの事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと思われる。新カリキュラム適用学年までは、専門科目の修得が臨地実習Ⅰの事前指導に追いついていない現状があるため、今後も新カリ始動まではフォローを要する部分が多いことを念頭におきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、3.7～3.8ポイント(中央値4.0)と高い評価であった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習(臨地実習Ⅰ)で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。事前学習ノートによる知識の振り返りの必要性について十分に指導したため、実習前の予習項目が明確になったと考える。一方で、社会規範に関しては、電話対応や挨拶、実習先での振る舞い等、担当教員からも十分な指導が行えたと感じており、目標とする理想レベルに近い状態まで到達できたと考える。後期科目である臨地実習Ⅰの実習先指導者からの評価は非常に高い結果となって帰ってきており、本科目における実習事前指導の効果が証明されたと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、『臨床栄養』および『応用栄養』の栄養学分野において、最新情報や重点事項を解説する。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ臨床栄養に関する専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。 本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『必須科目である:85.9%』『資格取得に必要である:38.0%』との理由であったが、「必須科目である」、「資格取得に必要である」との認識が、これまでの(2018年度までの)履修者よりも低いことは、後に記載する学生の目標達成度が低かったことに少なからずとも影響しているのではないかと考える。授業準備性について、4年生で必須の授業科目が少ないこともあり、事前・事後学習の時間確保は確保されていたものの、十分とは言い難かったため、今年度の講義においても、資料配布ならびに確認テストの導入等、事前事後学習に対し強化することを試みた。特に事後学習への取り組みが低いため、『応用栄養分野』において、毎回の講義終了時に確認テストを導入し、復習につなげるように試みたが、31%程度の学生が復習を行っていないと回答していたため、次年度以降も事前事後学習の強化を継続していきたいと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は55.3(±13.5)点であり、標準的レベル(60点以上とする)には至らなかった。また標準偏差が大きかったことは、学生の修得状況における個人差が大きかったものと考えられる。レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は4名(5%)、標準的レベル(60点～79点)が27名(33%)であった。38%程度の学生が標準的レベル以上を達成できてはいたものの、残りの60%程度の学生は標準的レベルに至っておらず、次年度以降も標準的レベルに達する学生の割合を増やすことを目標に、教授法の見直し、予習の実施、復習テストの導入等、次学年の学習意欲や習得レベルに合わせたさらなる強化が必要になると考える。また、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していたにもかかわらず、95%程度の学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかった。さらに、上記3の「授業準備について」に記載した受講動機について、「必須科目である」、「資格取得に必要である」との認識が、これまでの(2018年度までの)履修者よりも低いことに関しても、理想的レベルの修得に至らなかった原因の1つとも考える。次年度以降、上記に記載したように教授法の見直し、復習テストの導入といった何らかの知識確認のためのさらなる強化の必要性が明らかとなった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、臨床実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答している。しかし、試験成績は標準的レベルを達成できた学生が約33%と低いため、学生の達成度自己評価と試験の点数の間に乖離がみられる。しかしこの教科に対する学生の受講意識と自己評価が高いことを鑑みると、講義の内容的妥当性については問題ないものと考え、次年度以降は学生(学年)の理解、修得レベルに合わせた講義進捗と講義内容の検討を試みる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。また、この演習における図書館、学術データベースの利用が低いため、事前・事後学習に図書館の活用も進めていきたいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績は普通レベルであるが、達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての課題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策が必要であると思われ、次年度以降も資料配布ならびに確認テストの継続、さらには第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進(今年度は、シラバスに沿って授業計画を立てた学生(35%程度)が増加したが、まだ少ない。また、教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生(26%程度)も少ない。)、学習法の実例の提示等、事前事後学習に対し、さらに強化していきたいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-ray再生装置の音声が小さく、うまく学習ができなかった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は55.86であり、全体の平均値65.12で10ポイントほど下回った。他学科に比して相当低い。その意味ではやや到達状況は悪かったと見るができる。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0乃至3.5であり、全項目の平均は3.2～3.4であった。これは前年とあまり変わらない。また、「少しそうでない」という項目に1名いるが、あとは「まあまあそうだ」以上である。学生諸君は授業を理解したつもりだが、実際はよく理解していないという結果になっている。 ③授業の質評価は各項目の平均値が32～3.3であり、中央値は全て3.0であった。説明の理解しやすさで4名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を目指して努力しなくてはなるまい。しかし、それは昨年度も同様の評価なのでしっかり改善したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①教職課程なので科目の位置づけは問題ない。
--	------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①テストについての情報に於いてやや学生は混乱していたようだ。今後は事前の説明を明確にしたい。 ②説明がわかりにくいという声があったので、丁寧な説明を心がけることとしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	もっとわかりやすい授業改善に取り組まなくてはいけないだろう。
------------------------------	---------------------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。特に資源が豊富にあるわけでないわが国では「教育は国家100年の計」とはよく言われてきた言葉である。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むようにそして明日の子どもたちの心理に訴えかけられるような教師になれるように学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。試験結果を見てみると、しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。取り組んでくれた学生に感謝したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を具体的にシラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。毎授業の終了時点で回収する感想と質問のコメントにもよくあらわれていた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「映像の力は大きい」と再認識している。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に 毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ毎年のことであるが学生らの意見の中には出来るだけ授 業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法をさらに試みてみたいと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体现している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学 習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。対話型の講義を今年も模索したい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が7名中6名、そのうち80点以上が3名であった。また、到達度自己評価においては、2項目を除きすべての項目で4.0を超えている。(8)の技能表現に関する項目では、若干低い評価となっているものの、全体としては「達成された」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、自己評価項目のほぼすべてにおいて肯定的で、高い評価をしているとともに、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」ではすべての項目で高い評価だったが、特に(3)(4)(5)の評価が高かった。学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。 ただ、図書館利用や事前準備などの評価から学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容や参加型の内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 特別活動全体を俯瞰しつつ、各内容の詳細について考察したため、再確認したり繰り返し解説したりするなどの時間が必要であった。そのため、指導案作成などの演習やグループでの話し合いに費やす時間が十分とは言い難かった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても重点化を図るなど、今後も工夫改善を図っていく必要があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。 ②模擬授業のための教材を一つに統一し、一コマに1グループの模擬授業を入れることとしてじっくり模擬授業と相互批判ができるようにした。 ③模擬授業の総時間を増やしたが、1コマ1模擬授業にしたため模擬授業をできないグループができた。 ④評価シートを書かせ、相互批判を取り入れた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績の平均値は75.00であり、全体の平均値79.22より4.22ポイント下回った。他学科に比してやや低い。その理由はわからないが試験に取り組む意欲が低いようだ。 ②しかし、到達度の自己評価は全項目の中央値がすべて3.0であり、全項目の平均もまたすべて3.4であった。まずまずの自己評価ではある。そして、「全くそうでない」「少しそうでない」という評価が全項目ゼロで在り、概ね授業を理解しているつもりになっている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程科目なので問題はない
--	-----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は各項目の平均値が2.8～3.3であり、中央値はすべて3.0であった。説明の理解しやすさで7名がわかりにくいとしているので、わかりやすい授業を 目指して努力しなくてはなるまい。 ②説明がわかりにくかったという意見があり、説明を丁寧にするよう心懸けたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①模擬授業は同じ教材では飽きてくるようなので、複数の教材を扱わせたい。 ②準備時間にもう少し時間をかけたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭として学校教育に対する認識を深め、どのような食の指導を行う必要があるか考える力を身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の受講生は7名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるかもしれないが、到達度自己評価では、すべての項目で全員が、そうだと思うと答えており、目標は達成したと考えられる。 学習量の評価では、課題以外に学習に取り組んだ学生が1名であった。本科目を履修している学生は、将来、教員を目指す学生として主体的に学習に取り組む姿勢を身につける必要がある。そのため、主体的に学習を行うように促していくことが課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、教職に関する科目の中のに位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。到達度自己評価において、「職業選択の参考になった」の項目では平均点が3.9点であり、栄養教諭の職務等が理解できたのではないかと考えられる。その他の項目に関しても、全員がそうだと思うと回答しており、内容的妥当性はあると評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は7名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は7名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、全体を通して栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	栄養学科平均69.0(昨年度71.3)。全学科平均70.9。秀1(4.8%)、優5(23.8%)、良4(19.0%)、可10(47.6%)、不可1(4.8%)。秀が30ポイント以上減少し、可が30ポイント以上増加している。その分、優と良が増加し、不可は20ポイント減少している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	前年度は成績上位層と不合格者の二極化が目立った。本年度は不合格率が減った点は評価できるが、半数近くが可という結果になった。このレベルの答案は最低限の基準をぎりぎりクリアできるものであり、授業の効果や教材研究など工夫をこらす部分がほとんど手つかずの状況にある。お手本を真似ながら形だけは整えた段階であるため、授業づくりを楽しめなかった者が多いと思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	次年度は可の学生を減らすことが目標である。具体的には自分なりの授業づくりを具体的にイメージできるよう、早い段階で指導案の確認とそれに基づいた指導を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「必修科目」28.6%「資格に必要」85.7%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関することを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。 ③昨年度は課題等を与えることなく学生の自主性に任せた対応であったため、学習量の評価が低い状況であった。今年度は初回の授業から課題を与え事前の学習準備を行い提出させたことにより、全体的に学習量を増やすことができた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生7名中「まあまあ」「かなり」「わりに」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。 ②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「2名、4名、1名」「1名、5名、11名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答が7名で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、7名で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、7名で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。 ⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ7名で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足な結果となった。 すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「資格に必要」であり、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に應えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。 「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 自由記述では、説明もわかりやすく楽しく授業を受けることができたとの意見を頂いた。現代の学校現場の課題や、子ども達の抱える問題について、事例等で学ぶ事ができるよう、また、学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、授業の中で感謝の思いを伝えていただくことがあった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は「実体験話などがあり、すごくわかりやすくおもしろかったというものであった。 ②授業の質評価についたはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については、今年度は課題を与える等を行ったため、事前に事例等を学習し授業に生かすことができ発表も多くなり授業が活性化された。 ④授業中での情報機器や図書館の活用はなかったが、学生は事例等を調べるため個人での活用がなされたものとする。今年度は学生のグループ発表等で主体的に活動するような授業を増やすことができた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子供たちの成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度はさらに学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(学科全体46名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが44名で100%であって、他の動機は「単位数確保」が4名で60.6%、「資格取得」が1名で1.2%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第11に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「5,16,26」で94.0%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3,0」で6.0%、無回答が「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は74.5点であり、再試験対象は2名であったが、再履修者はいなかった。最終的に、分布的には、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は16名で31.4%であり、標準レベル(概ね60点以上)のそれは35名で68.6%であった。成績で見る限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 50名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「3,11,28」と「5,9,29」で84.0%と86.0%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「4,2」「3,3」でいずれも12.0%であったが、「無回答」がそれぞれ2名と1名あった。③ 専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「2,11,31」と「2,12,29」で88.0%と86.0%であったのに対し、否定的回答は「3,3」と「4,3」で12.0%と14.0%となった。④ 専門分野でも＜意欲＞に関し肯定的回答は「3,11,30」で88.0%であり、否定的回答は「3,3」で12.0%であった。⑤ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「3,10,31」「2,9,31」で88.0%と84.0%であったのに対し、否定的回答は「3,3」と「5,3」で12.0%と16.0%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「3,11,30」で88.0%であったのに対して否定的回答は「3,3」で12.0%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「1,9,32」で84.0%であったのに対し、否定的回答は「4,4」で16.0%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞ではいずれも12.0%あった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ12.0%と14.0%、＜意欲＞も12.0%であり、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では12.0%と16.0%であり、＜倫理・規範＞に関しては12.0%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答がいずれも12.0%台であった。これに対し、専門分野では、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ12.0%と14.0%台、12.0%台、12.0%台と16.0%台であった。つまり、DPの位置づけにおいても、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野に多く、否定的回答は専門と技能表現の分野とにおいて増加するという、CPと同様なことが見られる。以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は、1件で難易度についてであった。この面での改善が必要である。学習量につき、4人が取組んだ学習内容を挙げ、9人が取組まない理由について挙げ、「必要性を感じなかった」(4)が最も多く、「何をすれば良いか分からない」(3)が続き、「時間がなかった等」(2)という学生もいた。第1回目授業から、テキストを予習・復習で読むように頻繁に奨励したが、動機付けが不十分であった。② 学習量の評価を見ると、延べ人数で見ると<1回30分以上の予復習>6回を1人が実践し、1回以上は26.0%で3割未満に留まった。③ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「4.17.24」で90.0%で、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「5.0」で10.0%あった。<理解しやすい>という項目では、肯定的回答は「4.13.26」で86.0%であったが、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「6.1」で14.0%と1割台あった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「3.10.29」で84.0%あり、否定的回答は「6.0」で12.0%あったが、「無回答」が2名あった。<参加の機会>では肯定的回答が「4.9.31」と88.0%であり、否定的回答が「6.0」で12.0%であった。④ 今後、知識・理解をより得られるように説明の改善に向け、1)パワーポイントの利用、2)予復習の必要性の明示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、<6. 授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。確かに、再履修の学生がいなかったが、しかし、テストの点が好ましくなく、テスト以外の点との総合点で何とか及第点に達した学生も若干いた。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後はパワーポイントを用い、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「8,17,22」で94.0%であった。② 他の学科との全体授業であったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「5,12,26」で86.0%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるように、創設者等の先達者の学校墓地（西南の森）を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績で見ると、受講生51人中、92.2%にあたる47名の受講生は標準的レベルに達したが、4名は標準レベルに達しなかった。その内2名は提出課題の不足により、他の2名は出席不足によった。② 学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「5,16,22」と「7,13,23」でいずれも86.0%であった。レポートには、受講生が積極的に関連する事項を図書館やネットで調べ、順序良く書かれよう指示し、字数を満たしていないものや、内容が十分でないものには再提出を課していることから、内容自体に関して単位取得の課題を充足しない受講生は、0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、<知識><理解>では「少し」「全く」の順に「5,1」とも「4,2」でいずれも12.0%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための<知識><理解>は否定的回答が12%であった。③ 以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は4件で、レポートの課題との関係での授業日程への要望が2件、「説明」に関するものと評価の配分に関するものが各1件あった。検討し、適切に対応したい。② 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「6,15,25」で92.0%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「5,13,25」で86.0%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「5,9,28」で84.0%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「5,12,26」で86.0%であった。④ 今後のことであるが、この学生の授業評価を参考に、1)今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2)理解の共有化を図る工夫、3)3学科全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にすることが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、改善に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科

氏名

配当学年

前期・後期・通年の別

必修・選択の別

学科横断的科目か

登録された受講者数

1

前期

必修

はい

52

2. 観点・DP上の位置

該当に○

知識理解 (DP1)

思考判断 (DP2)

意欲関心 (DP3)

態度 (DP4)

技能表現 (DP5)

○

×

○

×

○

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性

全体を通して

知識理解 (DP1)

思考判断 (DP2)

意欲関心 (DP3)

態度 (DP4)

技能表現 (DP5)

達成された

達成された

達成された

やや達成された

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価については、平均値が3.8～4.5

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。

本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえられない「学生と学科教育」に重要な時間であったと考える。

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。 授講の理由は必修科目であるため96%、関心がある者が僅か4%であった。健康や生理学が基本となる学部で関心の程度が低いことは残念だ。 健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませよう促した。 出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは40名(77%)であった。 目標達成できたと答えた総数は52人中48名で高値を示した。 「知識が獲得できたと思う」は52人、「事象理解の視点を得た」と思う者は52名、「課題検討力」を得た者52名、「判断力を得た」52名、「学習意欲が得られた」52名、「必要技能を得た」52名、「表現力を向上できた」52名、「倫理規範獲得」52名、「職業選択の参考」52名と非常に高い自己評価を持っている。 欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には栄養系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容と考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が1名(52名中)と良い結果と考える。 舞授業の復習、興味関心調べをA4用紙にまとめ提出してもらったことがこのような結果に結びついたと考える。 シラバスを参考にしなかった者が13名(52名中)、授業計画を立てなかった者9名であったが、図書館、データベース、インターネットのいずれかの利用者は48名と大 多数であった。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実践、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが口固定にならないように、種目が変わる毎にメンバーの口入れ替えを行い、できるだけ口多くの人とコミュニケーションをとることができるよう口入れした。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点(SD15)であり、再試対象は0名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものが49名と予想以上に多かった。 達成度に関する自己評価では目標達成できたと答えた総数は25人(27人中)で高値を示した。 目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は26名、「事象理解の視点を得た」と思う者は24名、「課題検討力」を得たと答えた者24名、「判断力を得た」26名、「学習意欲が得られた」26名、「必要技能を得た」27名、「表現力の向上」26名、「倫理規範獲得」26名、「職業選択の参考」20名と高い自己評価を持たすことができた。 欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にであり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が28%で、単位獲得目的の学生が56%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は93%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科

氏名

配当学年

前期・後期・通年の別

必修・選択の別

学科横断的科目か

登録された受講者数

1

前期

必修

はい

52

2. 観点・DP上の位置

該当に○

知識理解 (DP1)

思考判断 (DP2)

意欲関心 (DP3)

態度 (DP4)

技能表現 (DP5)

○

×

○

×

○

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 本科目は看護学科、福祉学科及び栄養学科における学
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」
なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、
これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

全体を通して

知識理解 (DP1)

思考判断 (DP2)

意欲関心 (DP3)

態度 (DP4)

技能表現 (DP5)

達成された

達成された

達成された

達成された

6. 授業の進め方とその向上について

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生が建学の精神に触れると同時に、専門科目

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この地球上に生命が誕生して、約38億年が経過し多様な生物の出現と絶滅を経て、現在は数百万種の生物が存在している。その生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き方を知ることは、意義あることだと考えられる。生命の持つ共通性は、近年、より深く追及されその意味が明らかになりつつある。これと並行し、生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されており、生命の共通性と多様性について理解を深めていくとを目的とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は49名中49名であった。平均点は74.3±5.8点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。理想的なレベル(概ね80点以上)に到達した学生は9名おり、受講者の18%が理想的なレベルに達していたことになる。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が10%程度あることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館等の利用を促したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容の妥当性 本科目は「学部共通科目の基礎教養科目」であり、選択科目である。生活するうえで、必要な或いは普遍的な身につけておく必要のある科目と考えているが、高校で習得した生物基礎すら記憶に残っていない学生もいたようである。しかしながら、平均点で標準的なレベルを超えていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ても内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3と低かった。身近な現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学部共通科目の基礎教養分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度について定期試験の結果からほとんどの学生が標準的レベルで取り組んだものと判断できることから、概ね目標をクリアできたものとする。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかったことは反省点ではある。しかしながら、教養的性格の強い生物学であるため、基本的には知識の習得に重きを置くべきと考えている。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度あったグループワークに関して、グループに一つの評価点を与える形が評価の公平性に不満が出ていた点を鑑み、事後テストの形での理解確認を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価の平均値、中央値から、やや達成されたとみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全学対象の教養科目という位置づけであり、カリキュラム上の他の科目との関連性はあまり高くない。そういった経緯もあり、学生の受講目的も大半は単位数確保であり、評価は難しいところではあるが、内容的にはシラバス通りに進められ、達成度評価からも一定程度知識理解を進められたと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業資料をPowerPointファイルの形で配布しており、またシラバス上でも復習方法を書いていたため、自由記述で復習の方法がわからないため復習しなかったという学生が相当数いたのは予想外だった。授業の中でも指示するようにする必要がありそうだ。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年度と比較すると、グループではなく個人に課題を課したことで評価の公平性に関する疑問が出なくなった点はよかったと考えている。全体的に、そもそも内容理解のモチベーションが高くない状況で履修するケースが多いため、より興味を持ってもらいやすくなるよう配慮したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目である。今回の受講動機は、「単位数を確保する」62.5%、次いで「関心のある内容である」25.0%であった。昨年に引き続き本年度の学生の受講態度は良好で、「化学」をいう科目に取り組む姿勢、意欲をある程度感じた。講義では、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で（私の講義を理解していく上で）必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。 ②講義は、スライド中心に勤めている。レジュメは、用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。しかし、講義中は、スライドの丸写しにだけ集中している学生が少なからず見られるのも事実であり、この点が今後の課題である。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均は79点、受講登録者50名中、不合格者は3名であった。優（80点以上）以上の成績を修めた学生は29名、うち90点以上が12名であった。本年度の平均点、高得点成績を修めた学生の割合は、いずれも例年より多かった。一方、不合格者3名のうち、2名は単位放棄者であるので、受験した上での不合格者は1名のみと少なかった。試験問題は、基礎的知識（化合物や代謝経路の定義等）と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題した。本年度の成績は、昨年よりやや高かったが、おとなしい学生が多いのか、受講態度はよいものの、意欲や積極性については、はっきりしなかった。多くの学生が、講義に意欲的に取り組むことで、今後更に成長することを期待する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。 全体としては、妥当な内容であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度は、数値上、良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は良好であったが、さらに意欲と積極性を発揮すること期待する。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面が本年度もまだまだ不足していたと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度は、合格率、平均点とも概ね極めて良好であった。本年度は、達成度について特記することはない。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。このことが生化学Ⅰへとつながっていくことを期待する。次年度からも講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	木梨 安子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語の基礎力をつけることに重点を置いて授業を実施した。英文を文頭から把握していく力をつけるために、文法は英文構造を理解するための語順の骨組みとなる文型理解を中心に指導した。受講生には、復習に力を入れるよう促し、その結果を毎回小テストを実施することで受講生の理解度を測る指導を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末テスト・小テストの成績結果、及び授業でのこちらの質問に対しての反応など全体を通して、基礎力を身につけるという目標成果は個人差はあるもののやや達成されたと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語の基礎的知識を理解しその知識を応用して、英語力向上の基盤とする点において、妥当であると思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	習熟度にどうしても開きがあり、レベルが上位の受講生には進度が遅くても、初級レベルの受講生には速いという反応がある。どのクラスにもそれは言えることだが、理解できずに進んでいく授業は受講生の意欲を削ぐことにつながる。小テストを実施してきたのはそれを確認するためでもあった。アンケートにもあったが、英語がわからないという学生にわかるように指導する配慮が必要だと感じている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末テスト及び学生アンケートの結果から、英語表現を理解する上で必要な基礎知識は大半の受講生が受講前よりも平均して高まったとみられるが、英語が依然としてわからないという受講生にどのような学習指導を促すべきか検討する必要があると思われる。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	島居 佳江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	栄養学科の当該学生にとって、必修科目を理由にした人は4名で、全体の17.4%にあたる。学部のカリキュラムを把握していなかったため、必修の学生と選択の学生が混ざっていることを予期していなかった。英語学習に対して意欲が低い学生も散見されたが、毎回行った小テスト、また期末テストでは、真面目に取り組んでもらえた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバスの学生が達成すべき目標は、1. グループワークで能動的に授業に参加できる 2. 基本的な語彙力を身につける 3. 基本的な文法事項を理解できる 4. 必要な情報を聞き取るリスニング力を身につける、だったが、1はみんな和気藹々と大変積極的にグループワークを行なった。2に関しては毎回の小テストで合格するまで語彙の習得に取り組んだ。また、3・4は授業中に集中して、頑張ってくれた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の自己評価で、学生の専門分野との関連を問う選択肢では、やや評価が低かった。英語力が上がって、栄養学科の知識が増すと考え難かったのだろうことは理解できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価には、概ね高評価を頂けた。ただし、授業の課外以外の学習に及ぶには至らなかったようだ。授業でいっぱいだったのかもしれないし、専門科目で忙しかったのかもしれないが、もっと学習の幅を広げる努力を行うべきだった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたが、授業が終わってから英語の学習を続ける学生がいるかどうかは、甚だ心許ない。持続可能な学習習慣をつけることが出来たら、すばらしいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、70%以上の学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期的に行う毎回行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出してテスト後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。到達度自己評価においては、多くの項目において平均値・中央値が3.5以上であり、教育目標はやや達成されたと思われるが、多くの学生が韓国文化やカルチャーには大変興味をもち、韓国を理解しようという強い意欲はもっているものの、語学の学習には苦労した学生が多かったように思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいて いる受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは 全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な 語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニ ケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が38.1%、「単位数を確保する」が81.0%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②Word、Excelの基本的な事項の理解度を問う小テストを実施した。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績の平均値は79.5であり標準偏差は11.8であった。成績は課題(30%)、小テスト(30%)、プレゼンテーション(40%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているので良しとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.0～4.0と少し低い評価の項目があるが、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学共通のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.6、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0と高かった。学生の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の意見として、「説明が速くてわかりにくかった」というものがあった。説明について後で参照できるように改善できる様にしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「情報処理基礎」の名称から連想される内容とは異なり、操作技術を習得する課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を課している。 また、サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している 具体的には、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させている。 ネット犯罪および著作権に関しては、警視庁のサイトで公開の対策ビデオ、および公益社団法人著作権情報センターのDVDを視聴し、Wordでレポートを作成している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、AクラスはA:7.7%、B:46.2%、C:30.8%、D:11.5%、E:3.8%、BクラスはA:12.0%、B:20.0%、C:28.0%、D:36.0%であった。 授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1)4%、(2)4%、(3)4%、(4)2%、「出来る」の割合は、(1)29%、(2)78%、(3)20%、(4)37%であった。 (1) 2進数およびデータ量の単位と接頭辞を理解する。 (2) ネットワークエチケットを守ることができる (3) インターネット事件の概要と予防方法を説明できる (4) WordおよびExcelの基本機能が使える					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、成績評価および行動目標の自己評価の結果より、「知識・理解(DP1)」「思考・判断(DP2)」「態度(DP4)」共に内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	習熟度別クラスではないため、出身高校のコース(商業科、普通科)により、技術的な格差が広がっているように思うが、相互に教え合える雰囲気を作り、教え合うことを奨励することで、友達作りにも繋がり、授業の進め方に大きな問題はないと考えている。 過去に授業には出席しながら未完成の課題を提出し単位を落とした学生が出た。そこで、最初の授業で、未完成の課題を提出して単位を落とさないよう注意をしており、未完成の課題を提出した学生はいなかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	大きな問題はなかったと考えている。
------------------------------	--------------------------

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。 ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方ですと終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。 また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。受講生の8割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「(2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が3.7、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方ですと終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 また、Webページの作成についても、調査した結果をグラフや表を交えつつ、わかりやすく伝えることに重きを置いた。 アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたため、今後もぜひ継続していきたい。□
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が3.0以上であることから、授業の進め方に問題はないと言える。 平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。 また、グループでの活動と発表を取り入れることにより、学生の主体的な参加を促した。 このことは、「(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.7(中央値4.0)と高いことにつな がっていると考えている。 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除するため、H30年度からWeb上でのプログラミングエディタにおいて自動補完機能を導 入し、入力時の負担を軽減できるようにしている。 講義の前後などを含め、受講生の疑問、質問に対応する時間をつくったことが、「(5)口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作 られていた」の平均値(3.9)に反映されていると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	*総括的評価* 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れていると考えている。 *課題* 比較的順調に課題をこなせる学生がいる一方、コンピュータに対する苦手意識をもつ学生が一定数いるため、能力やリテラシーのばらつきをどのように軽減していく か、レベルをどのあたりに設定するかが、今後の課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考ええる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師(ゲストスピーカー)の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について学修することを目的としている。授業は昨年度と同様の形式で行われた。二日間の集中講義で、初日は九州歯科大学、西日本工業大学、本学の三大学による合同授業が行われ、二日目にはグループワーク形式で演習が行われた。本年度の受講動機では、「単位数の確保」との回答が88%で最も多く、次いでGPAをあげる」(12%)「関心のある内容である」(8%)であった。他に「資格取得に必要である」(4%)との回答も見られた。昨年度、予復習を行った学生は、殆どみられず、要因として集中講義であり、また、専門分野の異なる他大学の教員による連携講義のため、予復習を効果的に行うポイント見つけるのが難しいことが推察された。本年度は授業の進め方として、二日目の演習に向け、前日に資料を配布し説明を行い、予習へ取り組みを促した。しかしながら、予習に取り組んだ者は僅かであった。本年度の授業評価を踏まえ、三大学で連携し、今後の授業の進め方やレジュメの改善を図りたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合的な成績の平均値は、86(±1.5)点であった。殆どの学生(100%)において、理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。学生による授業評価においては、自分なりの目標を達成し、また、新たな知識を得ることができたと全員(100%)が回答していた。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得たとの回答も全員から得られており、知識理解の観点、思考判断の観点から教育目標は概ね達成できたと考える(到達度自己評価平均値:3.6-3.8)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身に着けることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。 まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」においては、提出物等の評価基準、学習の範囲や課題などについて、平均値は3.6であった。評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。更に、グループワークの際に約4割の学生がインターネットのホームページ等を授業に活用し、他大学の学生と協働し意見を交換しながら学びを深めていた。また、集中講義二日目の授業の時間配分について過年度、「パワーポイントを作成する時間が少なかった」との意見が寄せられていたため、昨年度に引き続き、本年度も時間配分が検討された。この度の授業評価では、「時間配分」に関する意見は特に見られなかったため、本年度の授業の進め方を参考に、次年度以降の授業改善に取り組みたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学習到達度の自己評価から、殆どの学生(100%)が目標を達成し、新たな知識を得ており、また学びを深めたいとの回答を得た。次年度に向けこれらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容や配布資料等について引き続き検討を重ねる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学 I	2	前期	必修	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解と思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である98.6%」、「資格取得に必要である」5.8%で、「関心のある内容である」0%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は70.2(±14.9)点であり、不合格者は13名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したが、成績の差は大きかった。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は2点上昇したが、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も98.6%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、 学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.3であった。昨年の評価より0.2点上昇した。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える 機会が作られた」の平均は3.3で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3で、昨年より上昇した。次年度に向けては、知識・ 理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、授業の進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕 事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、 毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康情報処理論	2	前期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年次になり、実習・実験の授業が多く、他科目のレポート課題が多いこともあり、思考することを重視し、90分の時間内で完結できるような内容にし、教えない授業を心がけている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	AクラスはA:10.5%、B:44.7%、C:39.5%、D:2.6%、E:2.6%、BクラスはA:10.5%、B:31.6%、C:39.5%、D:10.5%、E:7.9%であった。 授業評価の折に、以下の行動目標について、出来る、何とか出来る、出来ないの3段階で自己評価して貰ったところ、出来ないと解答した割合は、(1)7%(4%)、(2)4%(4%)、(3)10%(5%)、(4)25%(13%)であり、昨年の値より増加している。特に(4)の高校の基礎数学の復習となる記述統計処理においては出来ないが25%となっている。 (1) 適切な健康情報を検索・収集できる。 (2) 収集した健康情報について信頼できる情報か否か判断できる。 (3) 収集した健康情報を適正に処理し、問題解決、意思決定に活用できる。 (4) 健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。 一方、出来ると回答した割合は、(1)22%(30%)、(2)10%(11%)、(3)12%(23%)、(4)4%(11%)と減少している。 この原因は、「現代社会と統計」の授業15回が閉講となり、高校の基礎数学で学ぶ記述統計学の内容を本健康情報処理論の後半7回で行ったこと、その結果、健康情報処理と意思決定についての授業が半減したことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、内容的に妥当であると考えます。また、一般消費者の立場、売り手の立場に加え、管理栄養士の立場からの3つの視点から思考し判断するような授業を心がけた。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 設問の理解(文章の解釈)については成績の結果から、知識・理解が定着していると考えられるが、「記述統計学」の知識と理解、および「思考・判断」に関しては、批判的・理論的に判断することの大切さを認識するに留まっている。 ③まとめ 以上から、「知識・理解」においても「思考・判断」においても、学生の学力に見合った授業内容の見直しが必要だと認識している。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様「説明が理解できない」、「意味が分からない」というコメントがある一方で、人数は少なくなっているものの統計学(数学)の好きな学生もおり、学力の格差は大きいと認識している。 相互に教え合うこと、分からないことは質問するよう、促しているが、両端に位置する学生に、教えること、質問することの苦手な学生が多いように思う。 高校の基礎数学で記述統計学を習っていない学生も結構おり、彼女らにとっては7回の統計学の授業は苦痛だったようで、スマホで遊んだり、うつぶせて眠ったりする学生がいた。 これらの学生はクラス全体の雰囲気にも悪影響を及ぼす。 次年度は、従来の授業内容を減らし学生の学力に合わせた内容にする予定である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回15回の「現代社会と統計学」の閉講の影響が、想定していたより大きいことを実感している。 「人工知能(AI)」、「ビッグデータ」という言葉を普通に目にするようになり、小学校からプログラミングを学ぶ時代となった現在、彼女達の人生の選択肢を増やす上で、中学・高校の基本的な数学、記述統計学が有益であることは明らかである。 将来家庭を持ち親となるだろうことを踏まえ、学士力の担保以前に、身の回りの具体的な事例を教材とし、中学高校で学ぶ基本的な数学&統計学の知識が大切であるということを認識できるような授業を心掛けたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえように取り組んだ。 説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、講義開始前に紙媒体で配布し、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。 ③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次前期での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。 ④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は52名中52名であった。本試験の平均点は74.7±7.1点であり、標準的なレベル(概ね70点以上)に到達していると考えられる。加えて、90点以上が4名であった。昨年度と比較すると平均点も落ち上位層がかなり減少している。次年度は本年度より一層、講義資料を前もって配布し、進みそうな範囲を前もって予習してきてもらうなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が10%程度あることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。 ③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったので、課題を与えて図書館等の利用を促したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ても内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2と低かった。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、科目の本質上、特に論理的思考を促すことに重点を置いて進めている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」、および一年時の必須科目である「生化学Ⅰ」で講義した知識・理論と運動性をもたせるように心掛けている。今回の受講動機は、「必修科目である」94.9%、「資格取得に必要である」9.0%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は、例年通り低く、わずか2.6%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない（人並みに学習していない）だけで、本当に苦手であるかどうかは定かではない場合が多いと考えられる。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつかの科目と関連していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。 ②毎年、キーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者数は、再履修を含め88名であった。最終成績の平均は72点、不合格者は14名（未受験者1名を含む）であった。合格者74名中、優（80点台）が14名、秀（90点台）が19名と、高成績者の割合が例年よりも高かった。これは教育効果がよほど高かったか、試験がよほどやさしかったかのどちらかが原因であろうが、おそらく後者である。その根拠は、秀の学生19名中満点のものが12名を占めたことである。したがって、本年度に限っては、不合格者は勉強不足が主な原因であると断じて差し支えないと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。合格率、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率から考えると、前二者に関しては、低調な内容であったと考える。やや高度な思考力を要する問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要がある。本年度の受講生、特に2年生は、受講態度が例年に比べて悪い、あるいは意欲が感じられないということはなかった。それに関わらず、予想に反して例年より得点率が低かった。今後、学生により論理的思考を積極的、意欲的に行うことを特に指導していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.9と低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本年度の学生の受講態度は、全体としては、評価に値するものであった合格率、平均点とも、過去3年間の中では一番高かった。その意味で、本年度は表面上は比較的高い達成度を得たように見える。しかし、満点の学生の割合が異常といえるほど大きいことから、単に試験が優しすぎただけである可能性もある。学生が本当に実力を例年以上に付けているかどうかは、4年時に国家試験に向けての模擬試験を受けた時の、生化学領域での得点率をみて判断する必要がある。本年度も講義中や講義後にわからないところを質問して、解決しようとする学生は、相変わらず少なかった。50点未満の低得点の学生は、勉強不足に加えて、疑問点を放置して解決していないために、多くの学生が確実に得点する問題を間違えている印象を受けた。学生の学習意欲を以下にして引き出すかが、課題であろう。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、まだ2年生であることから、医学的検査や疾病に対しての具体的な興味は持ち得ていないと考えられる。入学後初めての医学各論であるため、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。 ②授業で使用するスライドのレジュメを準備した。 ③学生の理解度を測るために、講義の節目に確認テストを実施した。学生にとって授業での重要事項を理解することができるのと同時に、教える側にとっても、学生の理解度を確認し、それに対処した授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は76(±12)点であり、再試験対象者は5名であった。再試験受験者は全員合格した。本試験の平均値からは概ね標準的なレベル(70点以上)に達しているが、成績分布は、90点以上が13名いる一方、69点以下が14名であり、学習到達レベルに開きがあると考えられる。学生の授業評価アンケートより、積極的に復習に取り組み知識の定着を図っている学生もいれば、時間がないという理由で授業以外の勉強時間が少ない学生も見受けられた。学生の勉学意欲に差があるため、個々の学習状況に応じて学習環境をサポートしていく必要があると思われる。また学習内容が多岐にわたるため、授業や確認テストを通して、重要事項をくり返し理解させ定着させる工夫が必要であると考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたっては高度の医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が自分なりの目標をある程度は達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、学びを深め意欲を持つことができたとは肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価および到達度自己評価は、概ね3.5点と肯定的であ ったが、授業の中で発表する機会が少なかったと感じる学生がいるため、 今後は授業の中に質問応答形式を取り入れる機会を増やしていきたい。ま た、予習復習をしなかった、シラバスを参考にしなかった、授業計画を 立てなかった、図書館を利用しなかった、と自己評価した学生が過半数 にのぼっていた。次回の授業内容を事前に提示確認し、授業に対する準 備・モチベーションを高めることを心がけたい。図書館に備えている参考 図書についても適宜言及し、落ち着いた環境での調べ学習を促したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門基礎科目であり、基礎的知識の習得については概ね達成で きた。後期の疾病診断治療学Ⅱにつながる科目として、管理栄養士に 求められる医学的知識を得ることができるように授業計画を練ったが、 要求される知識は医学、生物学、化学など質・量ともに広く、学生によ っては内容が高度で消化不良であった者も少なからず見受けられた。ま た授業の復習を行っていない学生も多く、授業時間内だけでは理解でき ない学生が多かったと思われる。毎回の確認テストを行って学生が理 解できていない事項に早めに対処したり、授業の中で事例を取り上げて 検討したり、質問応答形式の機会を増やしたりして、学生が積極的に自 己学習に取り組み、意欲関心を深めるような工夫を行っていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必修科目であり、また、管理栄養士国家試験の際に学生が苦手とする基礎系の科目の一つである。食品ごとの成分の特徴、機能性、加工上での特性など情報量が多いので、国家試験の出題傾向等を提示しながら、ポイントをまとめた講義にするよう心掛けた ②学生の受講動機は「必須科目である」97.2%となっており、管理栄養士国家試験を念頭に置いた取り組みは非常に重要であると思われる ③各種食品がもつ特性を学ぶ教科であるため、非常に範囲が広い。昨年度は、学生が重要項目を把握することが非常に難しいとの意見が多かった。そこで今年度は、要点をまとめられるプリントを作成し、授業内でそのプリントをまとめることができるような授業の進め方を取り入れた。また、昨年度同様に、各章ごとの振り返りとして国家試験の過去問を取り入れた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎成績評価 成績平均値は65.9点であり、約70%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものは21名であった。再試験対象者24名中、2名が再履修対象となった。成績評価からみると、9割以上が標準レベルには達していたが平均点が低く再試験対象者も多かった。 ◎授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識の確認、新たに得ることができた」の項目では、平均値が3.6であった。また、学習量の評価において、事前事後学習が0回の学生が半数を超えていることも、知識の定着や理解度が低くなっている要因と考える。 国家試験に関連している科目であり情報量も非常に多いため、事後学習が特に大切である。今年度は、授業内で重要な点をまとめられ、また事後学習に繋がりがりやすいように、プリントを作成したが事後学習にはつながっていなかった。来年度は小テストなどを取り入れて事後学習の重要性を定着させたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品に関する、成分特性、機能性、加工特性など、管理栄養士・栄養士として食品の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から90%以上が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価においては、いずれの項目においても平均値は3.7であり、学生からの評価も概ね得られていると思われる。しかしながら、自発学習や事後学習に取り組んでいるとの回答が少ないことは、科目の特性上、改善するための対策が必要である。 学生からの意見に、「覚えることがいっぱい」との記載があった。学生自身も自覚していると思われるので、小テストまたは中間テストなどの導入を来年度以降は考えていきたい
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。90%が標準的なレベルに達しており、理想的レベルに達した学生数や平均点は、昨年度と比較すると上昇していた。これは、プリントを作成して授業を行った効果だと考える。しかしながら、依然として再試対象者が多い。授業中にプリントをまとめられたことに安心し、事後学習が定着していないことが原因であると思われる。来年度は、事後学習に繋げるためにも、小テストまたは中間試験などの実施を視野に入れて、授業を計画したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから授業を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした（印刷物も同様） ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し、覚えるポイントとした。 ⑤栄養士認定試験やフードスペシャリスト認定試験に出題される調理学の問題を印刷し、ノートを作成し学習ようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は81.9±7.2点、再試3名であった。80点以上が67%であり、79点以下が33%であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.6、4.0、(2)知識の確認修正:4.2、4.0、(3)事象を理解する考え方:3.5,3.0、(4)課題検討力:4.0、4.0、(5)的確な判断:4.1、4.0、(6)学習意欲:4.2、4.0であった。 この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価の(3)説明は理解しやすいものであったでは平均点4.1、中央値4.0で平均並みと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.3、中央値3.2とやや低い。 授業の最後にその回の内容をまとめた問題を解く時間を設けているため、学生に発表させるなどの方法を取り入れ、参加型授業を組み込んでいきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業の最後にしっかりと問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたい。 しかしながら、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が非常に希薄になっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。認定試験問題を配布し、調理学のノートを作成させ、問題になれるように心がけた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる歴史、文化、流通など多岐に渡ることから、授業の中で、重要な点ならびに資格試験への出題率が高い箇所を学生自身がまとめられるためにプリントを作成し、スライドを利用して授業を進めた。 ②学生の受講動機は、「資格取得に必要である」65.9%、「関心のある内容である」39.0%、「単位数を確保する」26.8%となっており資格試験に向けての取り組みは重要であると思われる。 ③理解度の確認ならびに資格試験問題に触れてもらうため、1つの章の講義が終わる際に、その範囲の資格試験過去問を解いてもらい、学生の学習意識を高めるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎成績評価 最終的な成績の平均値は73点であり、再試対象者は5名であった。88%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものの(80点以上)は15名であった。 ◎授業アンケート結果 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値4.1、「的確に判断する力、学びを深めたい意欲」では平均点4.0であった。 これらの成績評価ならびにアンケート結果から、知識理解においては、おおむね達成されたと考えられる。 学習量の評価において、「30分以上の復習」を行ったと答えた学生は30名/42名であった。知識の定着や理解度の確認のためには重要であり、3年次で受験する資格試験合格にもつながってくるため、今後も促していきたい					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する歴史、文化、食品産業の仕組み、食に関する法律、食糧事情まで幅広い教養を身に付けられる科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から88%が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身についていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年度のアンケート結果において、スライドが見づらいとの指摘があったため、スライドを見直し、重要な点がすぐにわかるように改善した。今年度は、スライドに関するコメントはなかったため改善できたと考えられる。しかしながら、グループワークなどを取り入れられなかったため「自分の意見をまとめる、話し合う、発表する」の項目では平均点3.1と最も低い値であった。来年度は是非とも検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	資格試験取得を目的とした科目であるため、単位修得だけではなく資格試験対策も視野に入れて授業を計画し進めた。成績は88%が標準レベルに達しおおむね達成できた。また、課題以外の学習では、テスト勉強だけでなく「復習を行った」とのコメントが昨年と比較して多数みられた。来年度も事後学習に取り組んでもらうよう促していきたい。資格試験の対策を視野に入れて授業を計画しているので、どうしても教員側からの一方向の講義になってしまっている。一年生前期の授業なので難しい面もあるが、学生が発言することを組み込んだ授業計画を来年度に向けて考えたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能基礎実習	1	前期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は一年前期の選択科目であり、内容は、担当教員である尾上および岡部の専門である生化学および生理学の初学者向けの実習と実験である。岡部は、同時期（一年前期）に、解剖生理学の講義（座学）を行っているが、尾上の生化学の講義は、一年後期以降からでまだ始まっていない。今回の受講動機をみると「必須科目である」と答えたものが91.7%と飛び抜けて多く、次いで「単位数を確保する」が16.7%であった。本年は、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が6.7%と、意外に多かった（昨年0%）。生理学、生化学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であり、意欲的に学習に取り組むことを本実習を通して啓蒙することは重要であり、そういう意味で、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が増えることは良い傾向である。 ②生理学、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、座学で並行して学んだ内容をただ単に丸暗記するのではなく、関連する実習を通してからだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを念頭において本科目を構築している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は82点で、受講者52名中51名が合格した。80点以上のものが26名、70点～79点が17名で、60点～69点が9名であった。成績の数値上は教育目標を概ね達成できたようにも見える。一方、学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、いずれの項目も3点台で、昨年よりも低調であった。学生に達成感を感じさせる工夫が必要かも知れない。 成績評価は、レポートおよび実習への取り組み（「その他」の項）で行ったが、レポートの点数がほとんどの学生で比較的低かった。これは、実験で観察された事実やデータの客観的、論理的解釈や考察が不十分であることがほとんどの原因であった。また、「学習量の評価」で、28名の学生しか30分以上の予習および復習を複数回実施していない。座学と異なり、より実践的な状況に近い本科目の様な実習に対する意欲・関心の啓発の達成度は、やや不十分であると考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目の位置づけは、専門基礎分野の選択科目であり、管理栄養士国家試験受験資格取得必須である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、実際に学生が意欲を持って取り組み、考える力をつけたか、という点（数字には表れにくい）においては、改善を目指していきたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、および意欲関心および技能表現を問う科目である。授業内容は、知識理解と技能表現を促すためのものとして、おおむね妥当な内容であったと考える。しかし、実際に十分な知識理解、技能表現を達成するためには学生一人一人が意欲的に取り組むことが大前提であり、この点、ほとんどの学生がまじめに取り組んではいたが、意欲において、今一歩不足していたように見受けられた。その結果、教育目標の達成度は、いずれも「やや達成された」と判断した。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」においては、全項目の平均は、3.84点と、昨年より高かった。各項目とも3.7点以上で比較的高かった。解剖生理、生化学などの基礎科目は、栄養学科学学生の苦手とする科目であるので、より一層わかりやすい説明を心掛けていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ座学の内容および身の回りの事例に関連付けながら実習を進めていく必要がある。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①実験を中心とした実習科目であることから、本科目では、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。座学で得た知識や論理を以下に実践の場で、活用しさらに発展させる力を養うことが、将来管理栄養士として現場で日々遭遇することになる膨大な情報、事例を客観的に把握、分析・解析し、根拠に基づいた栄養指導、治療を実現していく上で重要であることを強調して、授業を進めた。今回の受講動機は、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」9.3%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は0.0%であった。 ②例年用いている私が作成した実習書に、必要な変更や改訂を加えて配布した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均は70点、不合格者は0名であった。うち、優(80点以上)の成績を修めた学生は、わずか1名であった(昨年度4名)。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験中に観察された事実、あるいは実験から得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。ほとんどの学生が実習にまじめに取り組んでいたこと、またその中のかんりの割合の学生が積極性や意欲も見せていたことが、実習への取り組みに対する比較的高い評価に結びついた。その一方、高得点者が少ないのは、客観性、正確性、および論理性がレポートに表れておらず、多くの学生のレポート評価が低いためであると判断される。座学に比べて実習の成績が低いのは、教科書的な丸暗記等はまじめにこなすが、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が低いためと考えられる。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。本年度の成績は、平均点は昨年をやや上回っているものの同レベルであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという数字には表れにくい点について、これからも引き続き改善を目指していきたい。 ②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。 全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.9で、昨年と同様、本年度も一番低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本年度の合格率、平均点とも例年と同レベルであった。座学の成績から考えるともっと好成绩を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と連動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の受講動機は「必修科目である」が100%であり、栄養士、管理栄養士免許取得には欠かすことのできない科目である。加工食品を製造する過程で、食品の特性や変化を実際に確認し食品学Ⅱで学んだ知識の定着に繋げることに重点を置いた ②実習の際には示範を行い製造する上でのポイントなども細かく指示をして取り組ませた。実習においては学生自身で考え協力して取り組んでいる様子が見られた。 ③学習準備性では半数程度が0回との回答であった。知識の定着に繋げるためにも学生の事前学習が重要になってくる。事前学習に繋がるような取り組みを取り入れたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎成績評価 最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象者は1名であった。90%以上が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものの(80点以上)は33名であった。また、昨年度と比較して、平均点並びに理想的レベルに達した学生数も増加した。 ◎授業アンケート評価 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値が3.9、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の項目では、平均点が3.9、「必要となる技術を身につけることができた」では平均点4.0であった 授業アンケートの平均値は昨年度に比べ0.2～0.3点増加しており、成績評価においては十分な成果を得られていたため知識理解、思考判断においておおむね達成できたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であると考え。 ② DPからみた内容の妥当性 成績評価から90以上%が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の授業計画を見直し、実習項目の変更を行った。材料の異なる2種類の食品を製造する事で、完成品の味や形、食感の違いなどを比較しやすいものとした。これによって、原料食品の特性をより体感できたと考えている。授業の質の評価では、いずれの項目においても平均点3.7～3.9であり、学生からの評価も概ね得られていると思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「専門基礎分野」に位置づけされている。食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着でき、さらには技術の修得についても概ね達成できた。また、グループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養を身に着けることにも繋がったと考えられる。また、2種類の加工食品を製造させ比較することによって、食品の特性を実際に確認することができ、様々な思考判断力も修得できたと思われる。実習過程において、食品の変化など学生自身に着目してもらうためにも、最終授業の際に班ごとの発表を取り入れることを来年度以降で検討したい。また、学生の質問を受け、それに答える機会を持つという項目が、他の項目に比べ低かったためそのような機会を設けたい。 食品を製造する実習であるので、学生も積極的に実習に参加していた。しかし、「作る」ということに集中しすぎる面もみられたので、その点は改善したいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	前期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①シラバスや実際の実習内容について予定を説明し、各週で誰が何を担当するかなど、役割分担を事前に決定し、個々人で献立の責任を持たせるようにした。 ②すべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛付けるかまでをわかりやすく説明した。 ③実習の前週に次回の献立内容とポイントを記入するレポートを配布し予習してくるよう促した。 ④実習時間が短く、数種類の料理を作成するのは大変であるが、なぜそうするか、その理由をいつも説明し、根拠に基づき調理ができるように促した。 ⑤楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は87.7±12.6点、再試が3名、無資格1名であった。80点以上が78.8%であり、79点以下が21.2%とまずまずのレベルであった。 到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:4.0、4.0、(2)知識の確認修正:4.2、4.0、(3)事象を理解する考え:3.8,4.0、(4)課題を検討する力:4.0,4.0、(5)的確な判断:4.0、4.0、(6)学習意欲:4.0、4.0、(7)必要とする技術の習得:4.1、4.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価では(1)課題の評価が明確は平均点4.3、中央値4.0、(2)学習範囲の明確さは平均点4.3、中央値4.0、(3)説明の理解しやすさは平均点4.1、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、学習量の評価の(1)より予習を全く行っていないものが4名であることが分かった。実習をスムーズに効率よく行うには全体の予習が必須であり、実習前課題として作業工程表の作成を義務付けているが、予習を行ってこない学生の班は、実習の効率や流れに支障をきたしていると考えられる。予習を怠っている少数派の学生の対応が今後の課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.9、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を行うことで技術や知識が身についていくが、実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。1年後期の応用調理学実習では参加型実習を組み込んでいる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	71名中8名の学生が予習を行わずに調理実習に臨んでいることは、学習効率が非常に悪いと考えられる。この一部の学生の受け身的な態度を改善するよう対策が必要であると痛感した。対策として、実習前に各自が予習として、作業工程表を作成し、その工程表をもとに調理実習を行っている。1年生の基礎調理であるため、混乱は免れないが、少しずつでも各自ができるようになるように実習を積み重ねていく。また、調理技術をさらに身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的行動を促すよう取り組む。これと同時に、栄養価計算の知識、技術の習得も必要となるため、提出されたレポート課題の評価より、理解が不十分な学生に対しては個人指導を行うようにしている。 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるよう組み込んでいきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、1年生後期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く、基礎栄養学の後半を講義する科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員が履修している。ただ、管理栄養士国家試験の受験資格には必修であることを最初の授業で伝えているにもかかわらず、「資格取得に必要である」と答えたものが前回より更に低かった(今回10.3%、前回19.6%)。今後とも管理栄養士国家試験の受験資格の取得に必修であることを強調し、受講に対するモチベーションが高まるように努力したい。また、「関心のある内容である」と答えたものは例年少ないが、今年は0%であった。栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、授業の中でできるだけ具体的な事例を挙げて、なお一層強調していきたい。 ②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配付した。 ③授業で使用するパワーポイントの資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。 ④学期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ⑤授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。学生の要望に応じて、配付時期を早めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験成績のA、Bクラス合せた平均点(100点満点)は、73.4点(±16.6)で、昨年度(84.2点)より10点あまり成績が低下した。成績の内訳は、A(90点以上)が7名、B(80～89点)が22名、C(70点～79点)が24名、D(60～69点)が20名であった。本試験不合格者(D:60点未満)は5名(本試験欠席、受験資格なし各1名を含む)であった。そのうち4名が再試験受験手続をし、2名が合格し、2名が再試験を欠席した。昨年度と比較すると、成績優秀者(80点以上)が大幅に減少(78%→38%)し、70点台、60点台が増加していた。最終的な不合格者の数はほぼ同じであった。昨年度に比べて成績がかなり低下した原因は不明であるが、一つ考えられることは、昨年度は、授業の最後に練習問題を解く時間をつくる機会が多かったが、今年度は時間の関係でそれをあまり行わなかったことが影響しているかもしれない。今後、できるだけ授業の最後に練習問題を解いて講義内容の振り返りをする時間をつくるようにして、成績への影響を検討したい。 授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、(7)「専門分野で必要な技術を身につける(3.4)」以外はすべて平均点が3.5点以上で昨年度に比べてもやや高い評価であった(今年は3.4～3.6、昨年は3.2～3.6の範囲)。特に、項目(2)「知識の確認、修正と新知識の獲得」および項目(6)「専門分野を学ぶ意欲をもつ」については、3.6と高評価であった。 以上の結果より、昨年に比べ期末試験の成績は低下したが、全体的には概ね教育目標を達成できていると考えている。 「学習量の評価」では、30分以上の復習を1回以上実施している学生が約50%と昨年(約30%)より増加していた。今年度は、練習問題、管理栄養士国家試験の過去問題などの復習課題を、比較的早期に配付したことが、自学自習を促したものと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、基礎栄養学Ⅰ(必修科目)と連続した内容の科目なので、全員が履修するように指導している。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績もおおむね良好であることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②今回の学年からは新カリキュラムでの授業が始まったので、1年後期に基礎栄養Ⅰ、2年前期に基礎栄養Ⅱを受講することになった。従来に比べ、受講開始が半期早まったことになるが、このことがどのような影響を及ぼすかについては、慎重に検討する必要がある。今回のような成績の低下(というよりも、例年のレベルに戻ったということかもしれない)が続くようであれば、解剖生理、生化学などとの開講時期の再調整が必要になるかもしれない。 ③DP、行動目標からみても内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。 ④まとめ 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」は、昨年度とほぼ同じレベルで(昨年3.4～3.6→今年3.4～3.6)、これまでの評価(3.1～3.3)に比べ高評価であった。また、例年評価の低い項目(4) 「授業中の学生の発表・参加」、(5)「学生からの質問の受付とそれに対する回答」についても、昨年と同じく高得点であった(3.4～3.5)。これは、練習問題や国家試 験の過去問集を早い時期に学生に配布したこと、また、昨年に比べると回数はかなり減少したが、授業の最後に練習問題を出して、学生に解かせ、答えさせ、質問 させる機会を設けたことが高評価につながったものと思われる。以上、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかとわれ る。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践現場に活かせる ように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	前期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が93.2%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が4.1%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。 ②これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた上、「興味もてる内容であった」「楽しく講義を受けた」というコメントもあった。テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラス76名の受講生中、A(秀)が5.3%と低めで、B(優)が19.7%であり、C(良)が21%であった、D(可)が26.3%と高率で、不可の学生も27.6%ととても多かった。クラス別比較すると、Bクラスに不可の学生が多く、クラスのレベルによる授業進行の配慮も必要になることも考えた。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、少ないが5.3%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約41%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。またこれからも小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要性がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が93.2%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果、授業アンケートの自由意見から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、約41%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は64%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通していため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した、昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく、さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	はい	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①管理栄養士および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目である。以上のことから、履修動機としては「必修科目である」が97.2%を占める。 ②管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目であるが、現カリキュラムからは「食事摂取基準」に関する理論を学ぶ科目が1年次開講かれたため、前年度より学生準備性は高い状態であったように感じる。しかし、受講学生の計数能力の現状から、給与栄養量などの算定方法等が含まれる本講義では、演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。 ③本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化し、レポートを課している。給食の試食を通して、栄養・食事管理の実際に触れる機会としている。これにより、給食経営管理実習への関心の高まりを確認できている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の平均値は60.0(±18.2)点(昨年度68.9点)であり、再試対象者は28/76名(36.8%)であり、例年と同水準であった。本科目の9割は筆記試験による「知識理解」を評価しているため、再試対象者は知識レベルで標準到達していない者が再試対象者となっている。授業評価の「授業の質評価」および「到達度自己評価」を見る限り、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「課題を検討する力」、「的確に判断する力」、「学びを深めたい意欲」では回答者の100%が『『そう思う』』と回答しており、非常に高い評価である。以上、成績評価の平均値が基本レベルに到達している点と授業評価の回答状況から推察して、DP1・DP2についてはやや達成されたと評価される。一方で、「学習量の評価」では、約40%の者が、予習・復習などの授業以外の学習の取り組んでいない状況であったが、昨年度よりは減少していた。明らかに予習・復習に取り組んでいる学生が増えており、この理由としては、限られた授業時間の中での教授する知識と優先順位を絞り、尚且つ、復習の必修性を強調したことが影響したように思われる。これにより、DP3の達成度はやや達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は専門応用分野としての位置付けであり、栄養・食事管理の実務的な科目である。また、管理栄養士の職務に直結する科目の中でも、最も早く履修する科目でもある。そのため、管理栄養士という専門職種への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるような授業計画が求められる。現在おこなっている「演習を併用した授業構成」は、到達度自己評価の結果からもみて、理解を深めることに一定の効果を得ていると考える。 ②DP3に関しては、学生の自己評価から中央値4.0ポイントという数値が得られているが、受講態度を含めて総合して評価する必要があるように思われる。一方で、「評価基準」、「説明の理解しやすさ」については中央値4.0ポイントと評価しており、授業内容や方法に関しては適切なものであったと考えられる。 以上もことから、内容的妥当性は問題ないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、給食経営管理実習の準備科目として説明すべき重要項目が多くあり、一方向からの講義形式になりがちである。しかし、学生への質問を随所に入れており、学生が理解しているか確認をとりながら進められたと考える。しかしながら、成績評価の平均点は昨年度よりも低い結果となったため（－8.9点）、履修学生の理解度をよく検討する必要があると考える。一方、学生間の学習への取り組み意欲では、予習・復習をする学生が昨年度より増加していた。これは、修得すべき知識の優先順位を明確にしたこと及び、特に復習すべき項目を明確に提示したことが自宅学習を促す要因となったと考えられた。毎年のことながら、多様な学生に専門的な内容を理解させることの難しさを感じる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上を狙っている。本年度より、修得すべき知識の優先順位をより明確にできるような講義を心掛けている。そのため、自宅学習への取り組みは昨年度より改善されたと考える。しかしながら、学習効果が試験の点数に反映されておらず、学生らの学習方法へ注意を向ける必要があると思われた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬事法規概論	1	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目の開講した目的は、「学生の就職に役立つ登録販売者資格取得を支援する」ことであり、昨年度より開講した科目である。 ②登録販売者資格試験を受験しない学生にも、一般教養としてのセルフメディケーションの知識を高めてもらうために、身近な話題を取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の受講者の状況 登録された受講者数35名に対して、29名の学生が受講した。夏期集中講習であり、登録者の大部分の学生が受講したことは、該当学年の、進路に対する意識、および、学習意欲が高いことの表れである。また、選択科目にも関わらず2年生が3名受講した事も、この講座や登録販売者の認知度が上がった結果だと思われる。 ②評価結果 受験者28名が本試で合格した(1名受験資格を有するが欠席)。成績は、平均点が86.9、秀13名、優8名、良5名、可2名と、去年よりも優れた結果であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門選択」であり、また、夏期集中で実施するため、学習意欲が高い学生が受講し、質の高い成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価より「知識理解」について十分満足できる結果が得られた。去年に比べて成績の質が高いことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「学習量の評価:授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として「あまり時間が無かった」や「どうしても良いか分からなかった」が見受けられた。3日間連続の集中講義の為、時間が無いのは仕方ない部分もある。しかし、去年も「何をしたらよいか分からなかった」があったため、今年度は帰宅後にどのような予習や復習を行うかを具体的に指示していたが、口頭での説明だったためか、一部学生は聞き流らしていた可能性がある。次年度は、プリントや板書により確実に伝わるように心がけたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目の開講目的である、登録販売者受験のための知識養成、受験の動機づけ、一般教養としてのセルフメディケーションの基礎的知識の形成については、概ね達成できた。 ②担当教員への意見で「毎回のネタやクイズが面白く知識も身につけて良かったです」と書かれており、前回の課題であった「5限続けての講義の為に集中力が切れないような工夫」がきちんと機能していたと推測される。今後も、さらに工夫を凝らして、学生の皆様に満足できるような授業を心がけたいと思う。
------------------------------	---